

介護をとおして焼津に貢献

〜介護福祉士の原川大介さん〜

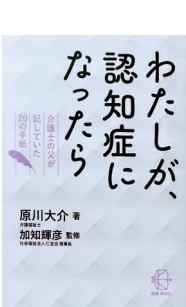
原川さんの
お仕事について教えてください！

市内外のいくつかの介護施設で、利用者の方やご家族の人生を支えるために、施設経営者やスタッフと一緒に、より良い介護方法を考えたり、施設の介護力を高めるための人材育成や課題解決、業務改善などを行っています。

また、介護従事者や地域の方々に向けた認知症介護に関する研修の講師をしています。

介護の仕事をする中で、
苦労したことは？

自分が夜勤をやっていた頃、当時のルール、介護保険法を守った



焼津図書館にて
貸出中です



インタビューの様子
(写真右が原川さん。左は川島・村田議員)

上で、一人で30人のお年寄りを看なければいけない時間があり、ナースコールがあつちでも鳴り、こつちでも鳴りという状況の中で、どうして良いか分からずイライラしてしまい、つい強く当たってしまった瞬間がありました。

ときもありましたが、同時に、介護の仕事を始めた時からすごく楽しいと思っています。今は、誰かのために頑張っている介護士を支えることがやりがいになっています。

認知症介護について
伝えたいことは？

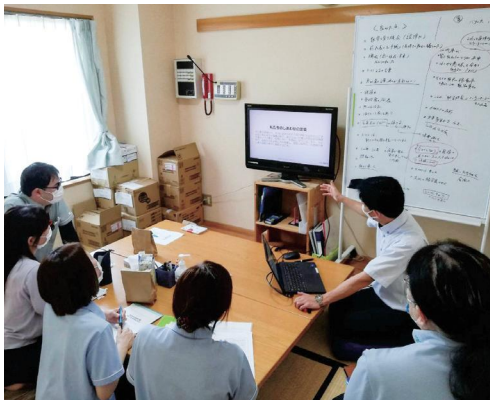
認知症の方を介護しているご家族は、今まで通り無理なく接して頂けたら良いと思います。家族ですから、時には、怒ったり放っておくことがあっても良いと思います。ただし、疲れてしまったり、困っている方は、どうか人の助けを頼ってほしいし、周囲の方は、ご本人にも家族にも優しい言葉をかけてほしいと思います。

現在、焼津市だけで約4千人の方が認知症を患っています。その



原川大介さん

議員が直接話を聞いて市民の本音に迫る「市民インタビュー」。今回は、『わたしが、認知症になったら』の著作者で介護福祉士の原川大介さんにお話を伺いました。



研修会の様子

方々に3人ずつ家族がいるとしたら、ご本人・ご家族合わせて1万6千人になります。焼津市民の8人に1人以上の方が、日々認知症という課題に直面しています。

だから、市民の皆さんには、認知症という課題を、他人事ではなく自分事として捉えてほしいです。

また、我々のような専門職は、普通の感覚を忘れずに、介護の仕事への誇りと、認知症を持つ方への敬意を持って、日々、自分自身を労いながら仕事を頑張ってほしいと思います。

認知症になった方や、そのご家族は、辛く大変な思いもなさっていませんが、地域の方がちゃんと理解してくれさえすれば、その不幸や負担が減ることが結構あります。

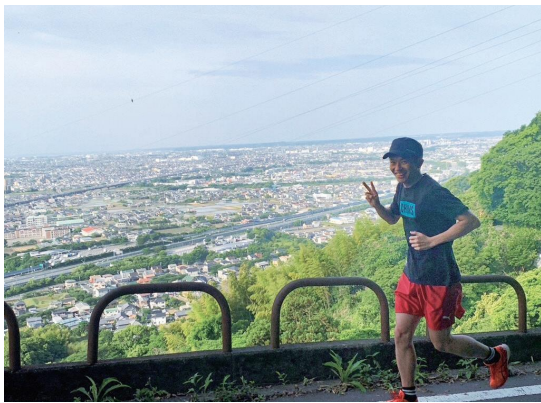
また、市の制度や介護事業所とか、誰かの助けを借りることで減らせる負担や不安も少なからずあります。

だから、「認知症になっても不幸にはならないよ」とは言い切れないけども、「認知症＝不幸」とは限らないし、辛く大変な思いをしている方も、今より幸せになれるんじゃないかというのは、断言できません。

皆さんに知ってもらいたいことはある？

先程も言いましたが、焼津市でも、現に約4千人の方が認知症を患っていること、その方を介護している方がいることを知ってほしいです。

そして、地域の人の何気ない言



週2回高草山を走り、焼津の自然を満喫している

葉や態度で、ご本人も家族もとても救われることを忘れずにいてほしいです。どうか、絶望ではなく希望を与える人であってほしいです。

そして、認知症問題に直面している方は、「助けてくれる制度や人がけっこういること」と「頑張り過ぎずに人に頼っていいこと」を知り、助けてもらう勇気を出してほしいです。例えば、市内でも医療福祉従事者は1万人近くいるし、介護施設は百か所以上あります。

今後の目標を教えてください！

今、目の前のことに感謝して、今できること、すべきことをなるべく楽しみながらやっていきたいです。それが結果的に、焼津市が更に良い市になることに貢献できたらとてもうれしいです。



原川大介さんの略歴、活動内容等は下記2次元コードからホームページをご覧ください。

メールアドレスはこちら
harakawadaisuke@outlook.jp

